

# 創業70周年式典を開催

## 関係者が今後の繁栄と飛躍誓う

### 日本建設技術(株)グループ

日本建設技術(株)（本社・唐津市北波多、原裕代表取締役）グループは8日、唐津シーサイドホテルで同社の創業70周年、精工C&C(株)（本社・唐津市北波多、中村宜彦代表取締役）の創業50周年の記念式典および2023年度（第19回）研究成果発表会を開催した。果発表会を開催した。関連6社の社員、来賓など約180人が出席し、同グループの今後の繁栄とさらなる飛躍を誓った。



創業70周年記念式典で挨拶する原裕代表取締役

冒頭、原代表取締役は会社の歴史を振り返った上で「社長になり、逆境もあったが、今思えば逆境も考え方によっては素晴らしいものに感じ、勇気と希望と自信を与えてもらい、成長できた。社員の皆さんも自分に対する誇りと自信と技術を磨き、自分が成長する機会を捕まえてほしい」とあいさつした。

続いて、古川康衆議院議員、福岡資麿参議院議員、山下雄平参議院議員らが来賓の祝辞を述べ、原代表取締役が会社の発展に貢献してくれた取引企業に感謝状を贈呈した。

成果発表では、企画開発戦略本部と沖繩事業本部の本部長も務める原代表取締役が「2022年のあゆみとミラクルソル工法でグリーン社会への挑戦」の演題で発表し、22年度の内容、ミラクルソルを使ったFWG・ウッドチップ工法、FWG・透水性舗装工法などについて説明した。

その中で原社長は「ウッドチップ工法は現場で発生した樹木発材を活用し、斜面の緑化がスムーズに進むので、早期に斜面が安定する。透水性舗装工法は道路の路盤や路床に水分を蓄え、高温化する道路面の温度を低下させる。SAGAサンライズパークの駐車場でも実証試験を行った」と解説した。

続いて、企画開発戦略本部の金丸彦一郎副本部長が「循環式飼育によるムラサキウニの身入りの向上」と題し発表。玄海地区で磯焼け地域に生息し、商品とまらないウニを陸上水槽内でキャベツなどを餌として飼育する新たなウニ養殖システムの可能性について検討した結果を報告し、「色々な課題があるが、ウニ養殖システムの技術を確立し、将来的には販路拡大につなげていきたい」と話した。

最後に精工C&C(株)技術統括本部設計課の立石千里さんが「業務効率化のために行ったことをテーマに発表。フォントの自動変換、写真などの大きさ調整、判定区分に伴う文言の変更など、エクセルの機能を利用した作業効率の上がる方法を紹介した。



日本建設技術(株)グループの創業70周年記念式典の様子

研究成果について、加藤合同国際特許事務所所長加藤久会長が「今後も原社長をはじめ、若い人も後に続いて頑張ってほしい」と講評した。

このほか、業務実績が良かった社員の表彰や懇親会も行われた。